

解題

アジア産業研究センター研究員／専修大学商学部教授 上田 和勇

ASEAN 市場には、ASEAN 以外の国からの積極的な投資もあり、近年、周知のように著しい経済的成長を遂げています。ご報告いただくオーストラリアのマシュー・アレン先生は、専修大学との提携校であるオーストラリア、ウーロンゴン大学大学院文学研究科の元教授・元研究科長で、現在はケアンズにあるジェームズクック大学の特任教授であります。ご専門は社会学及び文化人類学ですが、今回のシンポジウムでは「オーストラリアから見たメコン地域のビジネスと文化」について、ご報告をいただきます。

市場や国の発展にはいくつかの段階の存在が考えられます。ASEAN の市場統合により、インフラ、輸送、流通などハードの面での統合及び進展がまず図られ、次第に人材、教育、社員の厚生、環境などのソフトの面での改革が図られるというプロセスが考えられます。進出企業は主に安い労働力やコストを狙い、ハード面での整備に連動する形で利益優先の企業行動をとるでしょう。

オーストラリア企業においても進出動機は、ほぼ同様と考えられます。しかし、現地の文化、習慣、労働慣習、社員のライフ・スタイル、規制の強弱などの面で、あるいは生産活動が及ぼす環境への負荷の面などで、総じてソフトな面でのジレンマに陥る可能性を秘めています。こうしたジレンマを冷静に検討し、利益と進出国の経済的及び非経済的成長をバランス化する企業行動が求められなければなりません。

マシュー先生のご専門の社会学、文化人類学の視点から、ソフトの面における対応の重要性のお話を聞けるのではないかと思います。

日本企業のみならず ASEAN に進出する全企業にとり、将来、軽視できない諸問題の提言にもつながるご報告になることでしょう。